



2022-23 年度テーマ

第 2670 地区

# 宿毛ロータリークラブ会報



■会長	有田 裕彦
■幹事	池 和明
■SAA	田淵 満博
■クラブ奉仕委員長	岡崎 利久
■職業奉仕委員長	岡崎 利久
■社会奉仕委員長	西田 教世
■国際奉仕委員長	秋澤 誠
■青少年奉仕委員長	西岡 弘徳

■例会日：毎週木曜日 12:30~13:30  
 ■例会場：宿毛市幸町 秋沢ホテル  
 ■事務所  
 〒788-0003 高知県宿毛市幸町 6-43  
 TEL 0880-63-3416 FAX 0880-63-3417  
 URL [sukumorc-test.m-quartz.com](http://sukumorc-test.m-quartz.com)  
 E-Mail [sukumorc@mb.gallery.ne.jp](mailto:sukumorc@mb.gallery.ne.jp)

## 例会報告 第2773回 令和5年2月2日（木曜日） 天気：晴

■例会司会：田淵 SAA  
 ■開会点鐘：有田会長  
 ■Rソング：国歌・四つのテスト  
 ■プログラム：IM発表練習

### 四つのテスト 言行はこれらに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

### ■会長報告 有田会長

皆さんこんにちは。昨日から 12 球団のキャンプが始まりました。キャンプが始まると思出すのが、小学生のころ近鉄がキャンプに来ていました。大月の田舎者からすると宿毛はすごいなと思っていました。宿毛は映画館も 2 つありました。本屋に行ったり、おもちゃ屋に行ったり、いつもバスで行くのを楽しみにしていました。キャンプインになるとそんなキャンプを見に行っていたころをいつも思い出します。

### ■幹事報告 池 幹事

■国際ロータリー日本事務局より：

・平和構築と紛争予防月間 リソースのご案内

■ガバナー事務所より：

・第 15 回全国 PLAY 研究会 札幌会議開催のご案内

・プラスチックごみ奉仕活動に関するお願い

欠席届 7 名

### ■プログラム 高瀬会員

IM発表練習 西岡弘徳

宿毛RCの西岡弘徳と申します。RC 入会してまだ1年2カ月の新人です。仕事はクリーニングを営んでおります。家内と2人の娘がおります。今のテーマ『原点から未来へ』ということで、テーマを考える前に、RCのホームページを読みました。その中にRCの活動に『母子の健康』という項目があり、その内容で発表したいと考えました。子供の生死についてです。初めに2人の娘がいると申しましたが、間に長男がおります。坂本竜馬が大好きで、龍諒と名付けました。その息子が昨年8月に癌で旅立ちました。23歳でした。息子は中学から剣道をするため、高知学園に入学しましたが、入学2日目に原因不明の吐き気、頭をおこし、当初は親元離れてのホームシックで精神的なものだろうとの診断でしたが、一向に収まらず病院を転々とし、4 月末に四万十市の病院で癌がわかりました。脳腫瘍でした。すぐに、医大で20時間にもなる手術、放射線、抗ガン剤、リハビリ、病院スタッフの手厚い看護のおかげで、1年半後に無事退院、残りの1年を地元宿毛中学で過ごし卒業、高校は宿毛工業高校に入学し、楽しい学校生活を送ってまいりました。しかし、よく癌発症からの節が 3年5年10年目とはよくいったもので、ちょうど5年目目前で『次の検診で5年目、ここを無事乗りきったら完治やね』と話した矢先、頭痛がおこり、緊急で県民病院に運び、検査しました、脊髄に転移して再発症しているとの診断でした。それからは、抗ガン剤を4週間で4回点滴することを1クールとした抗ガン剤治療を行い、1 カ月自宅療養期間において、また抗ガン剤治療を1年間繰り返しました。そのため、高校の出席日数が不足、1年留年になりましたが、『僕は僕、全然気ならんけん。大丈夫よ』とあっけらかんとしていましたことが、親として大変救われたことでした。1年遅れで高校卒業し、その間に時間を見つけては週末、家内と息子と、三人で四国88カ所を周、病気完治を祈願し、結願して、高野山にもいきました。本当、家族の思い出の旅で行って良かったと思いました。高校卒業後は一暮らし出来るのだろうかという体力でしたが、生きているうちに好きなことをやらせようと、松山市の専門学校にアパートを借りて一人暮らしさせました。後日、私の父からの話で『松山での生活が一番楽しかった。』と言っていたそうです。本人のしたいことを一つでもさせてやれて本当に良かったと思いました。しかし、残酷なも

ので、だんだん病気は進行していきます。専門学校は残念ながら病気の進行で1年も通うことができず、10カ月で中退し、それからは自宅・入院治療・自宅・入院治療の繰り返しの生活になりました。当然、だんだんと身体もいうことをきかなくなってきました。小脳は人体のあらゆる神経機関司る所で、治療スタートの頃から、主治医からは、もしかしたら急に呼吸や臓がまる場合もあると、告げられておりました。後遺症は、手が震える、左足がいうことをきかなくなり、突然不安定になり、転倒することも多々ありました。あげればきりがなくらいの障害が出てきました。最後は車イスの生活になりましたが、それでも、『人は人、俺は俺やけん』と、全く愚痴や不平の一つも言いませんでした。昨年の4月、痛み、吐き気に耐えて、続けてきた抗ガン剤治療も、体力の限界から出来なくなり、医大で出来る治療は終え、自宅での在宅治療になりました。腹をくくるときがきました。4月末から8月29日までの数カ月でしたが、3人で過ごした日々は、当時は介護で大変な時もありましたが、今となっては最高に楽しく充実した時間でした。そして8月29日月曜日でした。仕事で、丁度、高知市内にでており、午後4時に帰宅したら、息子は かなり衰弱していても呼吸するもの精一杯で、言葉もアーとかウーというのが精一杯でした。午前中の訪問診療の時はまだしっかりしてお医者さんも明日また来るね。と約束して帰ったとのことでした。家内から、この日はもう水分をとることも出来なくなっていたと、医師からはもしも水分取れなくなったら残り1週間くらいと考えてくださいとは聞いていました、午後6時『息をしてない』と帰省中の次女が気づき、家内と2人で慌てて心臓マッサージ、人工呼吸を1時間行いましたが、叶わず、午後7時16分旅立ちました。家族みんなで支えあい、11年4カ月戦いました。息子の自慢をするならその闘病中『一切、つらい、なんで俺が、といった愚痴は一言もこぼさず』逆に『みんな大丈夫？車の運転とか気を付けてよ』と励まされました。最後に看取れたのは家内と次女と私の3人でしたが、最後に発した言葉もかすれた小さな声でしたが、『いままでありがとう』でした。丁度、コロナ7波がピークでしたので、家族葬を行いました。本当なら49日で納骨でしょうが、家内と暫く半年くらいは自宅においておこうと 話していたのです。ここからは信じる、信じないの、世界として、聞いてください。私は信じる方です。私身内に、その世界の者がいます彼の所に、息子が来て、こう話したそうです。「僕、行く道決まったけん、本町の自宅から出たいがよね。僕が家を出たいってお父さんに頼むように、ジジ(祖父)に言うてくれん？ジジからやったら、父さん言うこと聞いてくれるやろうから。」その話を聞いて、親として、息子が家を出たいんやったら、大賛成 [お前の行きたい道を行きなさいという事があり、急遽、納骨するようになりました。納骨に向かうとき、骨壺を抱えたら、息子を背負ったようで久しぶりに嬉しかったです。この話、後日談がありまして私の父(ジジ)からこの話を聞いて、納骨の日を決めたあと、身内の彼のもとに息子がお礼の挨拶に来たそうです。「ありがとうございました。これで道に進めます。ジジにも、よろしくお伝えください。」(敬語だったそうです。)と、お昼の仕事に来て、元気そうな顔で、南東の方角に、白い車に乗って行ったそうです。なんか親として、こんな形ですが、息子が好きな道に進めるようになり、少しですが、ホッとしました。今も寝ているときも頭の中から離れません。生活は確かに日常に戻りましたが、今も頭の中は、息子

中心に動いています。今の自分の楽しみといますか、未来への目標は1日1日時間を無駄に過ごすことなく一生懸命に生き抜くこと。健康だったなら生きてもっともっと生きたかった息子のためにも、生き抜いて凄い親父やったと言われるような人生を全うして、必ずいつか来る自分が旅立つときがきたら、『龍諒、会いたかったわ〜。』と言いたいです。また会えると信じています。最後になりますが、人の寿命は、長い短いがあり、平等ではありません。その時間を無駄に使うことなく、一生懸命、家族のため、仕事のため、仲間のために使っていきたい。そう考えています。ご清聴ありがとうございました。

#### ■ニコニコ

西岡会員 1,000円

当日はよろしく申し上げます

竹田会員 1,000円

西岡会員事前発表ありがとうございました。

#### 出席報告

56.52%